



# おにぎり通信

2022年9月17日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

今日9月17日は「牧水忌」、旅と酒と自然を愛した流離いの歌人・若山牧水が亡くなった日です。生きている自分を見つめて歌い、それが故に「かなし」「さびし」という言葉が多く出てきます。牧水は、人生は旅であると言い、旅先で歌を多く詠み、日本中に歌碑が建っています。大の酒好きで、朝2合昼2合夜4合と決めて一日一升の酒を呑んでいて、肝臓を悪くして43歳の若さで亡くなりました。牧水の誕生日に由来して8月24日は「愛酒の日」となっています。

幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく

われ歌をうたへりけふも故わかぬかなしみどもにうち追はれつつ

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり

福祉行動を希望の方は、おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階



おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ



おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい



四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麹町6-5-1 聖イグナチオ教会  
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)

## 【老いの生き方】

今年ことしは、9月がつ19日にちが敬老の日けいろう ひ がつ にち、9月しゅうかん15日ろうじんからの1週間しゅうかんが老人週間しゅうかんとなります。「敬老の日けいろう」の始まりはじは、昭和22年しょうわ ねんに兵庫県ひょうごけんのある村むらで、村主催むらしゅさいの敬老会けいろうかいが開かれたひらことに 遡さかのぼります。長い間なが社会あいだしゃかいに貢献こうけんしてきたお年寄りとしよを敬うやまい、知識ちしきや人生経験じんせいけいけんを伝つたえてもらう場ばを設もうけることが目的もくてきでした。敬老会けいろうかいは、農閑期のうかんきで気候的きこうてきにも過すごしやすい9月がつとされ、当日とうじつは、村中むらじゅうの自動三輪車じどうさんりんしゃを集めて55歳あつ以上のさいいじょう人ひとを送り迎えおく むかし、公会堂こうかいどうでご馳走ちそうと余興よきょうでもてなしたそうです。

長生きながいは、目出度めでたい「長寿ちようじゆ」ですが、長生きながいすることが幸しあわせかというかならと、必ずしもそうではないようさくねんで、昨年99歳さいで亡なくなった作家さっかの瀬戸内寂聴せとうちじゃくちようは、90歳さいになる辺りあたから寝たきりねや入院にゅういんを繰り返く返し、ちょっと長生きながいしすぎたいと言こっています。これまでも古今東西ここんとうざいさまさま様々な人ひとが「老いるお」ことについて書かき残のこしていますが、どちらかというとと、年としを重ねかさるつらさ、侘わびしさ、寂さびしさをひとばやく人ほうの方が多おおい感じかんです。

そんな中なか、老いるおことと上手じょうずに付き合つってきた人ひとたちもいます。「月と6ペンスつき」で有名なイギリスゆうめいの作家さっかモームいわ曰ろうねんく、「老年ろうねんには老年ろうねんの愉よしみがある」。老年ろうねんには、欲望よくぼうが消きえる、時間じかんがあるのでなんでもできる、若さわかゆえの偏かたより無しなに美術びじゆつや文学ぶんがくを楽したのしめる、そして自分じぶんの利益りえきだけを考かんがえる利己主義りこしゆぎからついに解放かいほうされる、と言いいます。評論家ひょうろんかの吉本隆明よしもとたかあきは、時間じかんを細こまかく刻きざんで考かんがえることを勧めすすます。先さきの事ことは考かんがえずに今いまを生いきる、そうすると気分きぶんが少すこしは楽らくになる、その時ときにいい気分きぶんであれば幸しあわせと考かんがえ、悪い気分わるであれば不幸ふこうと考かんがえるが、どちらも長ながくは続つづかない、人生じんせいの目的もくてきなんか知しったこっちゃない、老おい先さき短みじかいんだから、と。文豪ぶんごう・森鷗外もりおうがいの長男ちようなんである森於菟もりおとは、自分じぶんは父親ちちおやのような天才てんさいではなく凡人ほんじんで良よかった、老おいて恥はじをさらしても世間せけんに気兼ねきがない、耄碌もうろくした頭あたまには現実げんじつも夢ゆめも境さかいがなくぼんやりししており死おそへの恐おそれもない、と述のべています。